留学を終えて

岐阜高等学校　相原　李帆（アメリカ合衆国）

はじめに、私の留学を支えていただいた岐阜県教育委員会の方々に厚くお礼申し上げます。おかげさまで充実し、学びある１０か月を過ごすことができました。今思うと本当に一瞬で、あっという間に過ぎ去ってしまったこの１年弱の期間でしたが、私を大きく成長させてくれました。また、これからの人生において私の強み、長所になることと思います。私は他の多くの留学生と違い、なかなか留学する決心がつかず、最終的に応募に踏み切ったのは斡旋会社が設ける最終締め切り日の前日でした。そんな状況でも急ぎで手続きを進めてくださった先生方には感謝でいっぱいです。慌ただしく始まった留学生活でしたが、周りの人に恵まれ、とても幸せな経験になりました。

私が配属されたのはアメリカ、ニューメキシコ州にある比較的大きな町でした。日本とは違い、少し歩けば砂漠が広がって雨も中々降らず川が干上がるほど乾燥しています。ニューメキシコ州では米国内で唯一公用語として英語とスペイン語の２つが定められており、表記はすべて最低でも２か国語、また学校では半分以上の生徒がバイリンガルで、スペイン語の授業は必須など、常に２つの外国語と近い環境でした。スペイン語を話さない人々も簡単な挨拶はスペイン語で交わすなど、みなスペイン語と親しみがありました。町のダウンタウンで驚いたのは、ホームレスの人の多さでした。路上で寝る人、みすぼらしい格好で荷物を抱えて移動する人、信号待ちの車にお金を求める人を初めて見ました。日本にもホームレスの問題はあるのでしょうが、私自身あまり身近なことではなかったので、改めて当たり前に思っていた何不自由ない今の生活について考えさせられました。

私の通った現地の高校は小さな学校だったこともあって、初日からたくさんの友達に恵まれました。留学生が私ひとりで物珍しさもあったかもしれませんが、いつも近くにいてくれて支え笑わせてくれた彼らの存在なしではここまで楽しい留学生活になりませんでした。私は一度ホストチェンジを経験し、変わった先は最初に仲良くなった友達の家庭でした。最初のファミリーとはなかなか上手くいかなかったため、同年代のホストシスター、ブラザーがいるごく普通の家庭での生活はとても楽しかったです。留学開始から３か月ごろに急にホストファミリーになってくれないかと聞いたにも関わらず、それを即快諾して７か月間本当の家族のように接してくれたホストには感謝しきれません。クリスマスや誕生日、イースター、旅行、お別れパーティーなど様々な行事を私のために、また私を家族の一員として計画してくれました。また、毎週日曜と水曜の教会も初めての経験で、キリスト教徒ではない私でも歓迎してくれたチャーチファミリーの皆さんのおかげで、教会に

行くことは大好きでした。

友達関係で特に嬉しかったことは仲が良かった友達グループが、プロム（学年の最後に開かれるフォーマルなダンスパーティー）に招待するプロムポーズをサプライズでしてくれたことです。休日に何も知らされずに行ったショッピングモールでグループみんなの顔を見たときは嬉しさで涙が出ました。そのまま一緒にドレスを選ぶという最高に幸せな日を過ごしました。男女関係なしに親しく交際する友情のスタイルは日本ではあまりなかったことで、新鮮で楽しかったです。

学校では、一人一台パソコンが支給されて授業や課題をデジタルで行っていました。初めは慣れませんでしたが、タイピングやパワーポイントなど将来ビジネスで役立つ技術を学生のうちに学べるのは良いことだと思いました。プレゼンを作って発表したりディスカッションをしたりする場が多かったのが印象深く、専ら座学の日本の教育との大きな違いを体感しました。特に思い出深いのがサイエンスフェアという行事で、各自科学的なトピックを決めて２カ月ほどかけて研究し、それをまとめて発表するものです。私は一番強い耐震構造は何かという題を定め、実験をし、レポートとグラフをディスプレイボードにまとめて外部の審査員に説明しました。結果は校内で３位に入り、校外の大きな規模での大会に出場し、さらに多くの専門的な審査員と話をする機会をいただきました。その場でも審査員の方々に褒めていただき、２つの特別賞にも選ばれて本当に嬉しかったことを覚えています。

私の学校が特に力を入れていた教科は Humanities という歴史と英語の融合教科で、毎日授業がありました。毎週本を約５０ページ読んでその内容のクイズを受け、感想や意見をトークバックにまとめてグループで話し合う、というものです。最初は宿題や授業のレベルについていけず、絶望感を抱きました。読み終えられず内容も全く分からず自分の考えも持てず、焦ってばかりでした。しかし回数を重ねるうちに読むスピードが上がり、長い段落を書けるようになり、ディスカッションでの発言量が多くなっていきました。先生やクラスメイトの支えもあり、自分も精一杯努力して乗り越えることができたことは、良い経験になりました。Humanities の授業で気付いたことは、日本で学ぶただ年表を追う歴史とは違い、

現在のアメリカに繋がる、例えば人種・男女の差別や政治などにおける重要な出来事をピックアップして濃く深く学ぶという点です。特に第 3 タームではずっと愛国主義とは何かをベトナム戦争を通して学び、ベテラン兵に話を聞きに行ったり春休みの宿題で自分にとっての愛国主義とは何かを象徴した作品を作ったりしました。本当に身に付く、為になる授業だと思いましたし、生徒一人一人に意見を持たせ、共有させることで物事を広く見る目を養い、また躊躇なく自己を表現することを教える教育はアメリカ人の国民性に表れていると感じました。

大変貴重で充実した時間を持てたこと、言語や人種を超えてできた友達、良いこともそうではないこともその全ての思い出が一生の宝物です。培ったものを風化させないように、これからスピーチコンテストや英語ディベート、ボランティア活動などに積極的に参加し、常に学ぼうとする姿勢を大事にして、英語力やコミュニケーション能力、思考力などをさらに伸ばしていこうと思います。本当にありがとうございました。

Thank you very much. / Muchas gracias.